

序

依頼分析についての業務は、明治41年北海道農事試験場において開始されたが、昭和25年以降、北海道立中央農業試験場に継承され現在に至っている。

その間、明治41年～昭和41年の成績は分析成績彙集第1輯、同第2輯、同第3輯および分析成績集として刊行され広く利用されてきたが、その後、昭和59年までの18年間の成績をとりまとめ、ここに分析成績集（第2編）として発刊し、関係者の参考に供する次第である。

昭和60年3月

北海道立中央農業試験場

場長 馬場 徹 代

凡 例

先に北海道農事試験場より分析成績彙集として、第1輯(肥料:昭和6年)、第2輯(土壌:昭和9年)、第3輯(植物性飼料:昭和13年)に報告されている。更に昭和45年に北海道立中央農業試験場資料第5号、分析成績集として昭和13年度~41年度までの成績が報告されているが、今回、昭和59年までの18年間に依頼のあった分析結果を取りまとめ北海道立中央農業試験場資料第16号分析成績集(第2編)として、報告する。

なお、報告は主として、肥料、飼料、水質について行ない、土壌については特殊なもののみを報告した。又、付表として肥料濃度とpHおよびECの関係を記載した。

1 分析成績の取りまとめ期間 昭和42年1月~昭和59年12月

2 分析担当科

北海道立中央農業試験場化学部土壌肥料科第二係(昭和39年11月~50年4月)
" 土壌肥料第二科(昭和50年4月組織改正、現在に至る)

3 分析業務担当者並びに担当期間

技術史員	高田	亨	昭和42年1月~昭和59年12月
"	小林	茂	昭和54年4月~昭和59年12月
"	盛時	雄	昭和50年8月~昭和59年12月

4 今回掲載した分析件数は動物質肥料534件、植物質肥料78件、鉱物質肥料ならびに土壌改良剤596件、複合肥料192件、堆肥類320件、飼料318件、水質145件、土壌11件、計2,194件である。

5 分析個数5点以上の場合は平均値を記した。

6 主な略記号および単位記号

例:窒素 T-N、アンモニア態窒素 A-N、硝酸態窒素 N-N、りん P、りん酸 P_2O_5 、カリウム K、酸化カリウム K_2O 、カルシウム Ca、酸化カルシウム CaO、マグネシウム Mg、酸化マグネシウム MgO、酸化ナトリウム Na_2O 、珪酸 SiO_2 、酸化鉄 Fe_2O_3 、塩素 Cl、く溶性 C-、可溶性 S-、水溶性 W-、炭素 C、炭素率 C/N、塩基置換容量 CEC (me/100g)、置換性塩基 Ex. (mg/100g)、電気伝導率 EC (mS/cm)、酸度 pH (H_2O)、痕跡 tr、なお単位は、%、mg および ppm = p.、 μ などで表す。